

1、堂林の歴史…誕生秘話

昭和 6 年 2 月 13 日、県下で一番早い区画整理事業と言われている耕地整理による「堂林土地区画整理事業」が認可されました。昭和 9 年 (1934) 5 月 27 日の竣工式でこの事業に貢献された故長澤重兵衛氏の銅像と記念碑の除幕式も行われ堂林は実質誕生しました。現在、銅像はありませんが今でも立派な碑が残っております。その結果、それまで一部の茶畑や起伏のある一面の草刈場に加え、林が点在するという未開拓地であったこの地は大きく変貌したわけです。この事業は、道路のみならず側溝も整備され、現在も区画は変わらず当時建設された側溝がたくさん残っています。

2、堂林の地名の由来

昭和の初めのころ堂林は、上清水の小字名でした。ここは、今の上清水、下清水、船越、入江、桜ヶ丘、神田、北矢部（飛び地）に囲まれており、これらの村はずれの地でした。その村はずれの草刈り場や小さな林の中に祠とも思えるお堂（上清水の禅叢寺さんのお堂といわれている）があったそうで、そこから堂林の名がついたと伝えられています。

3、堂林自治会の発足

昭和 16 年ごろには、すでに「上清水町内会・堂林分会」を作っていたようですが、当時は戦時体制下のため連日、連夜の会合も珍しくなかったそうです。当時の議題は、焼夷弾の対処方法等でその油の払い落とし方、もんぺや防空頭巾の作成支援など戦中対策のことが多かったそうです。

昭和 31 年には世帯数も増えたことより、分会から「堂林自治会」となり、同時に岡地区連合自治会も、堂林、上二丁目、下清水（1 区、2 区、3 区、4 区）、上清水（第一、第二）、入江、船越の 10 自治会で発足しました。

その時の堂林自治会の隣組は、18 組の世帯数は 207 世帯で、自治会長は、18 組の故大瀧 長吉氏でした。今から丁度 60 年前のことです。

当時、堂林の比較的近い自治会のない地域には、新しく建設された三井物産や武田製薬などの社宅があり、堂林自治会にぜひ加入したいとの申し出があり自治会長も了解されたようでした（その後、その社宅地の近隣自治会の発足と同時に退会し各自治会へ編入された）。昭和 48 年 11 月 1 日、周辺の町村の一部が堂林に編入され、町名変更施行により小字名がとれ「清水市 堂林」という地籍となりました。昭和 52 年 8 月 1 日 住宅表示事業により堂林 1 丁目、2 丁目を定め。神田町の一部（105 世帯）が編入された結果、世帯数は 335 世帯と広範な堂林となりました。27 年 9 月 20 日現在で世帯数 395、

人口 1,207 人、隣組数 24 組ですが、現在世帯・人口共に微増中です。

4. 自治会館の建設と耐震化

昭和 57 年 2 月には、自治会の皆さんの出資により現在地に宅地 130.57 m² を購入し、その後準備が整い自治会館建設の機が熟したところで銀行の融資を受け昭和 63 年 7 月に待望の自治会館が落成いたしました。融資を受ける為に当時の自治会長、副会長など役員の皆さんが個人保証するというご尽力もあって完成したものです。その後、東海地震に備え、平成 20 年 1 月 25 日には、会館の耐震化の補強工事を実施し安全性を強化し現在に至っています。

5. 自治会の法人化

平成 19 年 11 月 30 日には、静岡県でもいち早く地縁法人として法人認可を受けました。これは、全国でも問題となっていた地方自治法が平成 3 年 4 月に改正されたことです。それまでは自治会は不動産の所有権を認めていなかったが、法人格取得によりそれが認められるようになったものです。堂林自治会も会則の改正とともに法人化し、静岡市に寄付していた土地は 20 年 12 月 4 日に譲与（返還）されました。

6. 自治会の I T（アイティー）化推進・(<http://doubayashi.main.jp/>)

世の中は、ますます情報化が進展していく中、自治会もその波に遅れぬよういち早く情報を発信する為に、平成 20 年 5 月に会員の携帯電話・パソコンによる自治会連絡メールの配信を行い、さらに 21 年 3 月からは、I T委員の努力より「堂林自治会ホームページ」を開設し、ネットによる迅速な配信を通じて自治会の広報活動と定時及び緊急の連絡等を配信し活動状況の掲示を行っています。ホームページには、掲示板や月次の予定、活動状況が掲載されています。また、28 年 5 月からは防災や緊急連絡体制の強化など自治会活動の情報化強化の一環として、W I F I 環境も整えたところです。

7、むらさき倶楽部・・・高齢者いきいき事業

平成 20 年 4 月から、いきいき事業の一環として高齢者の現状を把握する目的で発足しました。毎月 1 回テーマを決め、協力委員や民生委員など多くのスタッフの支援で実施しています。対象者は、基本的には 65 歳以上の方々に、音楽セラピーや健康講座、防災訓練、振り込め詐欺防犯講座、バルーンアート、陶芸教室、夏祭りへの協力等様々な活動をしております。若さを保ち地域コミュニティーの強化・研究に役立っていると県の奨励賞のほか笹川科学研究の助成などもあり充実した活動で好評価をいただいています。

8、まちづくり協働会議・・・区民意見聴取事業の一環として静岡市清水区地域総務課の支援事業。

これは、静岡市と自治会、専門家が三者一体となって地域課題の解決を目

指す活動です。当自治会がモデルとして選ばれ、具体的には、平成27年8月から今後高齢化が進展する中で後継者をいかに育成し自治運営を推進するか、「課題の掘り起こしと改善策」等議論を通して問題解決するというものです。自治会から30余名の委員を決めて、意見交換を行い連携・検討を進めさらには、地域の声を聴いてプロジェクトに反映するため27年12月には、初めて全会員にアンケートを実施しこれらのデータを参考にして現在煮詰めているところです。

9、その他の自治会活動

- ・堂林太鼓・・・平成23年から会員有志により毎週1回の練習を重ね新年ドラム焼や夏祭りをはじめ地域イベント等でも大活躍しております。
- ・神輿会・・・平成18年から新年会、夏祭りなどで有志の皆さんでの神輿渡御は圧巻です。
- ・子ども会・・・少子化により子供会のメンバーが減少している中で、父母の皆さんのご協力で子供の健全育成に注力しています。具体的には、新年会・どんと焼き、餅つき大会、夏祭り・神輿、節分祭（豆まき）6年生を送る会新1年生を迎える会、子供座禅会、ラジオ体操、子供会夏休み育成事業、紙すき、陶芸、竹細工などの作品づくり、太陽光発電所見学会など幅広く活動を行っており健全育成や地域活性化に貢献しています。
- ・自主防災会・・・12月の総合防災訓練には毎回、総勢300人余の会員が参加します。6月は防災を考える月間と定め起震車体験、三角巾の救急法、AED操作等独自の防災訓練を実施し防災意識の高揚に努めています。また、防災資機材のほか防災用備蓄食料等も整え、万一の災害時には一時しのぎができるよう備えています。
- ・寿会(老人会)・・・体育部、グランドゴルフ、輪投げ、文化部、カラオケ、コーラス部、囲碁、将棋、旅行など健康維持や会員との親睦を図っています。
- ・体育会・・・陸上部・バレーボール部・ソフトボール部・レクリエーション部等各部で運営しています。また、地区運動会では上位に君臨するとともに区民体育大会に多くの選抜選手を輩出しています。
- ・その他の委員会・・・民生・児童推進委員会 ネットワーク委員会・保護司会・更生保護女性会、保健委員会・交通安全委員会・青少年育成推進委員会（育成部・補導部）、廃棄物減量推進委員会
- ・その他の倶楽部・・・協力委員会(むらさき倶楽部、夏祭り、どんと焼き、バザー等への協力)、環境美化推進委員等

10、その他の部局

- ・防災会・事務局委員の設置・・・自主防災に関連する企画立案
- ・運営推進委員会・事務局委員の設置・・・自治会運営に関連する企画立案

・まちづくり協働会議委員会の設置・・・未来に向けての自治会運営の指針